

夏型感染症にご注意！

ヘルパンギーナ（水泡性咽頭炎）発生状況

毎年5月頃より増加しはじめ、7月にかけてピークに達し、9～10月にかけてほとんど見られなくなります。5歳以下の乳児を中心に流行します。



ヘルパンギーナとは？

- ・原因：主としてコクサッキーウイルスなど
- ・感染経路：咳、くしゃみ等による飛沫感染、患者糞便を介しての経口・接触感染、
- ・潜伏期間：2～4日

患者の多くは4歳以下で1歳代が最も多く、突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口腔内に小水疱が出現する夏かぜの一種です。多くは予後良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあります。

また、症状回復後も2～4週間、ウイルスが便の中に排出されるため、二次感染に注意が必要です。

予防のポイント

- (1) 咳がある時はマスクを着用する等、咳エチケットに留意しましょう。
- (2) 流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- (3) タオル、ハンカチは個人専用の清潔なものを使用しましょう。できればペーパータオルの使用をお勧めします。
- (4) 特に乳幼児の世話をされる方は、患者の糞便を処理する時、使い捨ての手袋を使い、汚染された場所および周辺を消毒しましょう。
- (5) 消毒に使う薬品は、次亜塩素酸ナトリウム（ハイター、ピューラックス等）を使用して下さい（使用の際は必ず説明書をよくご覧下さい）。

(参考)

厚生労働省ホームページ「わかりやすい感染症Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html> 兵庫県立健康科学研究所健康科学研究センター「兵庫県感染症情報」 <http://www.hyogo-iphes.jp/>

兵庫県加東健康福祉事務所